



報告書

Taichi

信州大学山岳会長野山岳部

〜目次〜

| | |
|-------------------|-----------|
| 戸隠・濁沢 (藤松・他家) | 6月24日~26日 |
| 六白山正面石壁 (藤松・井筒OB) | 8月7日 |
| 屏風岩 (藤松・小杉) | 8月14日~16日 |
| 黒部上磨下 (藤松・北沢) | 9月11日~15日 |
| 屏風岩 (大・茂俊) | 10月8日~10日 |

<戸隠濁沢>

1972.6.24~26 L 藤松 一家

24日 ①

7時のバスに乗り遅れ1時間30分遅れしてしまう。歩みまでし運よく車が止まってこれに乗せてもらう。西京から別川1pitch強行、別川にて再び車に乗せてもらう。まさに案牘のムード。ハンカ島みたいなところでおるしもらい。1pitch行くとキャンプ場。そこを下り濁沢へ入る。ありなとん行き止まり。左岸を高巻く。ちやうどシユリニゲがあり10m位のアップガイルをする。あまり肉負な所は無く快調に行くと、罫りの木がかなり伐採された。あまり良い気持でな。い。

小さな三段の滝(4m-2m-2m)にぶつかると右岸通いに渡りきる。

そして5m位の滝も右岸を登り行く。右側に天スゴフを見に行くが岩魚全く見えな。天気図をとり、この先へ行くのを止めたがすぐ天ヶ谷の滝が見え、5m位川底より上にツェルトを張る。

25日 ② → ① → ③

5時に起きるがあまり良い天気でない。天気図より悪天なる心配はない。出発してすぐ二段の滝が出て、左岸を巻く。又すぐ滝。左岸を登るが途中より行き止まり。もと右へ行く。

右に入きく曲がる所に来る。場所が全くわからず、正面の滝を右に直登(13m)その上に5mの滝(F₆)左端を微妙なバランスで登る。

F₇(10m) F₈(20m)の二段の滝全く手が出せず。このへんが核心部であろうと思いつつ右を高巻く。F₈の上には2. F₉(10m)があり、この上の所へおる。少し行くとF₁₀(5m)があり左を巻く。

F₁₁再び左を巻く。このへんの高巻きは水量は少ないが、川巾がきわめて狭く、しかもヒニ岩の為にもよく、すやすやしてブツをたよりに強引に行くしかない。そして7.2m位の氷たまりが深さ2m位あり、やむなく右を巻く。行くとF₁₂(5m)があり中央の木を登りF₁₃(8m)は1ニゲして、左を巻く。F₁₄(8m)も左を巻く。F₁₅(3m)右を巻き、川底の高巻きが移ったと思つた。5ニゲあり。石を巻く。

Fig(5m)を丘、Fm(2m)を直登しナメ状の滝を少し行くとニフニフ
肌をりて左を少し行くと所でお水だった。この少し手前で冷い中華をフ
くり焼いブッシュコギをすること1時30分。やっと2番のpeakの見え
るところに来る。休息。天気は一日中ガスで時々晴間が見える程度
であった。あとは歩く事数時間。物との思いで一不動の小屋
に着いた。

26日◎ガス

さう楽勝なのだと思ふ。下る。川や登る。かなりきついの行動が
足にきていさ。八方眺で十分休息が。視界はほんのわずかに西岳は
見える。月曜日というのに。登る来る人がいる。暇人!
奥社まで行くともう赤い。のせの子がたたく。俺は我家
と、えらい真違。

1本のヒールに酔い。ガードラインにこそ長野へ。

●記念録

24日

10:10 (鬼無里) ~ 12:25 (キヤ7場出) ~ 12:35 天正13

4:40 ~ 5:10 設営

25日

6:10 出 ~ 10:00 ~ 25 (海頭) ~ 11:45 (2番手前 peak)

~ 2:05 (2番目) ~ 3:45 (高着着) ~ 5:55 (一不動着)

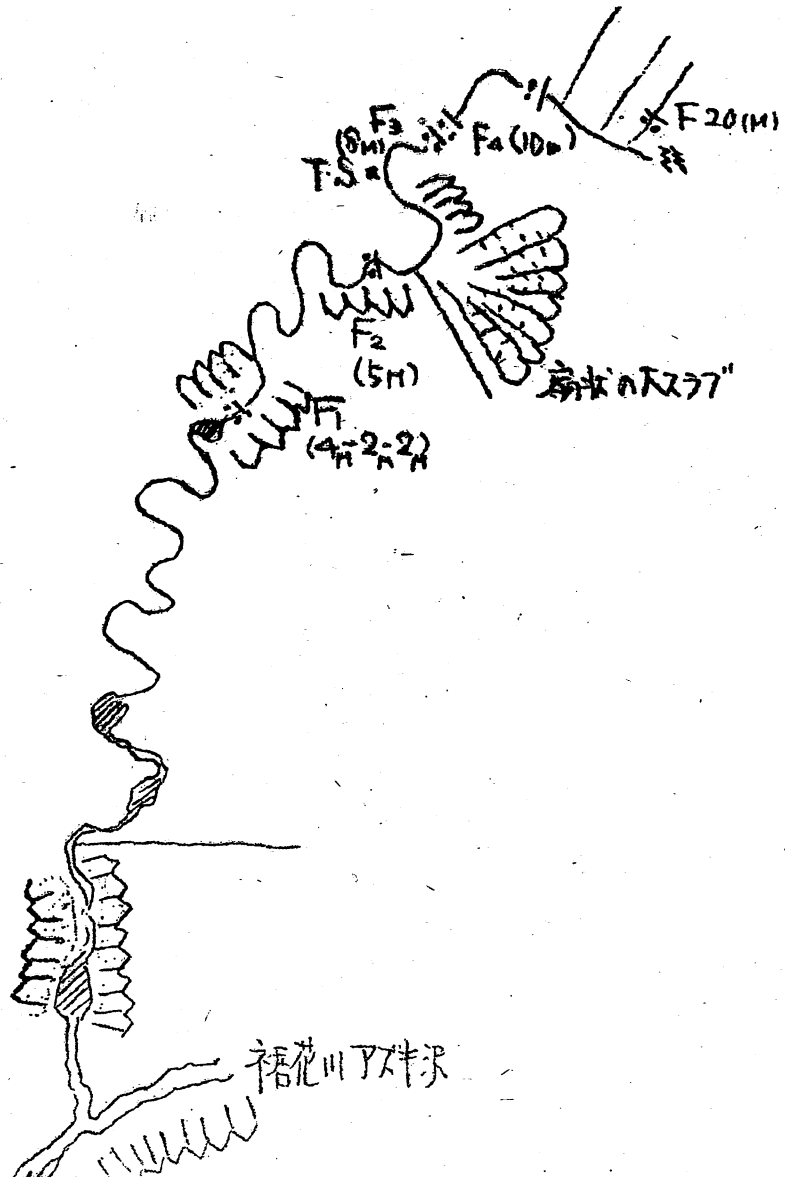
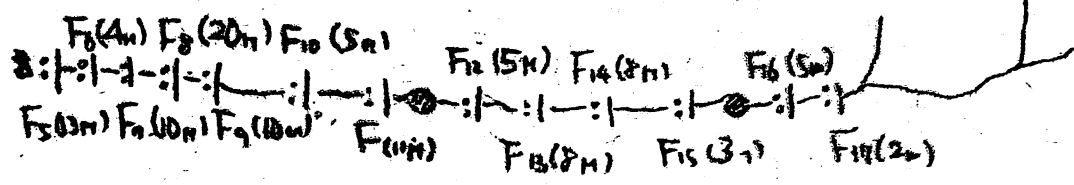
26日

5:50 夜明けのこいこい ~ 7:20 (出) ~ 8:55 (八方見)

10:40 (奥社着) ~ 11:40 (中社着) ~ 1:10 (長野着)

北十国

之香桶の地
↑



<屏風岩>

1972-8-14 ~ 8-16

△藤松 小杉

14日① 長野 ~ 松本 ~ 上高地 ~ 横尾

小杉兄化の二回目の山行。6時4分の汽車にて行く。

新島々までの快調であったが、あとはノロノロ4時間もかかったのだ。しかし我々は佐々君よりもあつたのだ。

バスの中でコイコイに寒中する事(晴向余やとの思)で大者市上高地に着く。取手に少し降りて人であつて来る女性を云々言いつつ横尾へ着く。

15日○

| | |
|--------------------------|-------|
| B.S巻 | 4:15 |
| 凸凹岩右下坂付 | 6:45 |
| 4pich 終了 (3本松テラス) | 8:30 |
| 7pich 終了 (カニテラス上ブッシュテラス) | 10:30 |
| 10pich 終了 (P1) | 12:15 |

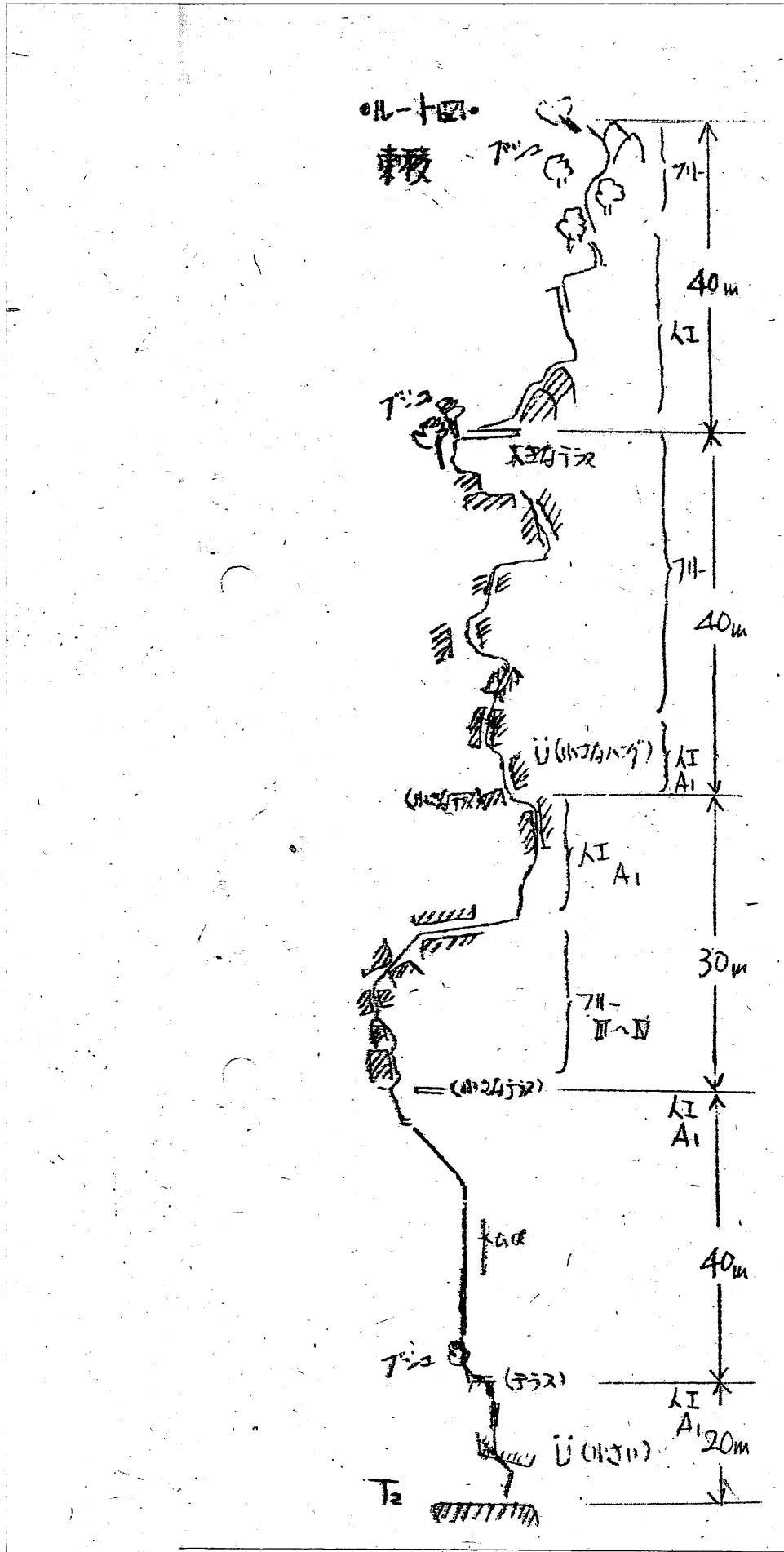
{

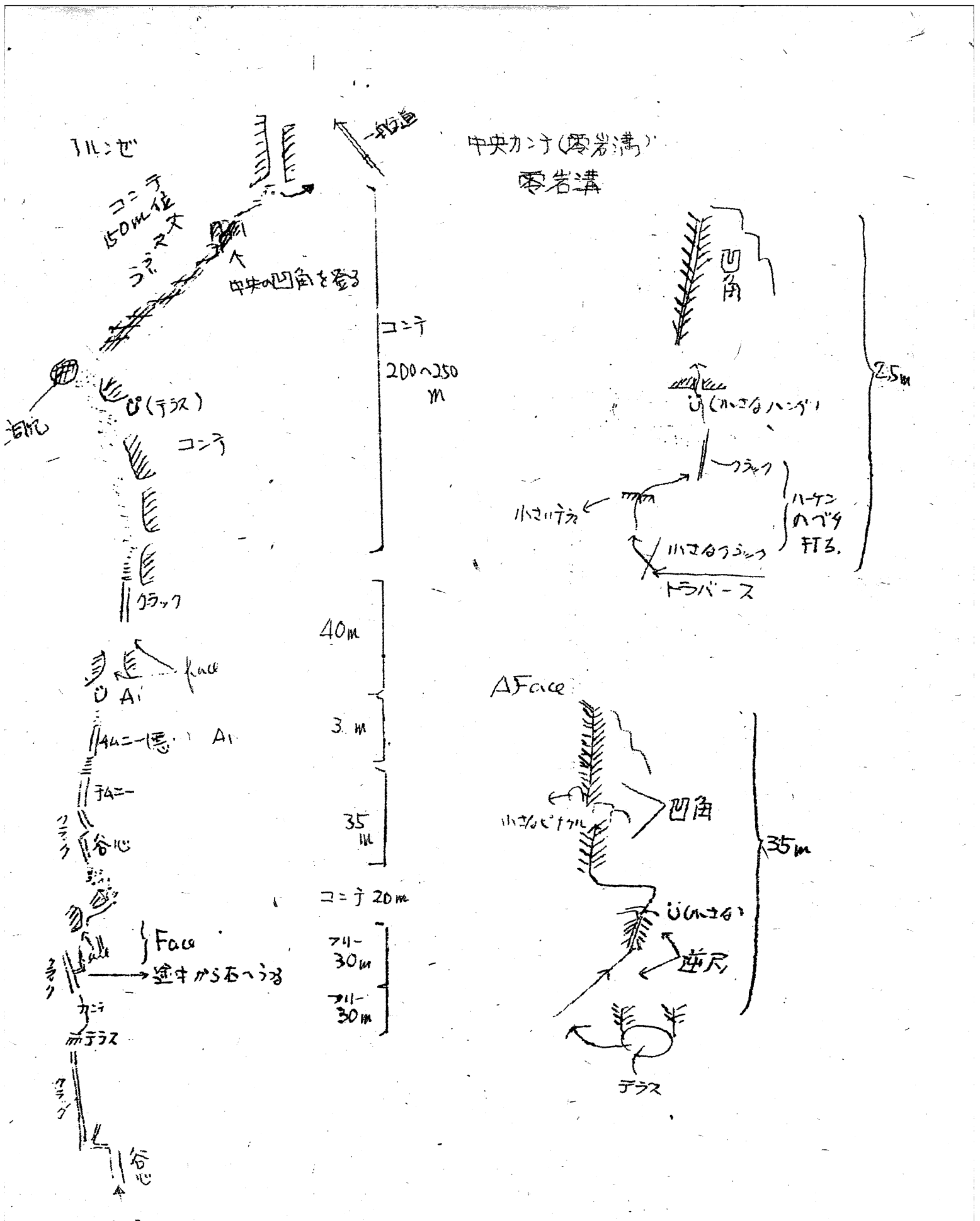
| | |
|----------|---------------|
| 3~4pich | 零岩溝 |
| 9~10pich | A Face |
| 8 pich | コニテ (B, ブッシュ) |

 } 切り方で十分1pichで通過出来る。

16日○

| | |
|--------------------------|-----------|
| B.S巻 | 4:35 |
| 上着 (横断ポイントの下より入る予定) 時間まち | 7:00 |
| 出巻 | 7:30 |
| 2pich 終了 | 60M 9:00 |
| 3pich 終了 | 40M 10:05 |
| 4pich 終了 (30分休む) | 40M 10:30 |
| 5pich 終了 (30分休む) | 30M 11:30 |





<黒部上、廊下>

1972・9・11~15

〔藤松・北沢〕

11日①~①

6:35 長野船 ~ 9:00 大町着 ~ 10:30 夕 ~ 10:50 黒川 ~ 12:35 平着

5:20 奥黒部に着 ~ 東沢より別川に上流に T.S

奥黒部に着、このおじちんはオドカシ山。金を1122 トロイでEssenceの
二倍もとらした。平の渡しで3時に渡船させ2もさったのはうかしお
に、しかる。気分の悪い入山でなり事は石壁か。

12日① 徒歩 21 高巻き 3

6:40 出発 ~ 9:35 口元のタム ~ 11:40 黒五着 ~ 12:25 中、タム沢着

専用のはよからすこぬらひ、右岸へ、そして、すぐ左岸とめまぐるしい。深さは
腰以上、まだギールはつす。そのうの棒をいれ、行く。9回目、対岸(右)
の岩にぶつかり、いっせいで少し登り、飛びおろす。10回目、初め、ギールをさす。
北沢の流の、倦がかわる。石壁を高巻くが、風化した花崗岩がすやす。
そのまじ、石岸を25mほど、いっせいで、9:35 口元のタムを通過する。

左岸へ徒歩し、高巻く。ハートンがあり、5M位のアップギールをする。7m、いっ
せいで、ぶつかり、おきな、悪い凹角を登り、石より、高巻き、すぐ下ろす。
この高巻きで、大きな浮き石を落とし、ヒヤとする。おりに、はよ、い、全く徒歩
点見つからず、あ、い、い、や、み、る、か、流、れ、が、強、く、無、理、し、か、し、ウ、ラ
C、お、び、込、み、に、突、破、し、数、回、徒、歩、す、と、急、に、ひ、ら、大、黒、五、(遠、外、の、川、川、)
左岸を簡単にトランバースし、あとは簡単な徒歩をし、中のタム沢出谷で T.S
にする。今日も、又、岩魚を釣るが、全く釣れない。

13日 〇~〇~① 徒歩 39

6:50 出発 ~ 8:15 金作谷出谷 ~ 11:35 立岩着 ~ 12:45 E沢(手前)

専用のはよから徒歩お事。冷たい。冷たい。半分は腰以上
上、黒ヒカが徒歩のくり返して、なんなく通過、金作谷より上流
の廊下帯で、いっせいで、失敗し、7m、いっせいで、(藤松)し、お、し、又、ウ、ラ
C、お、び、込、み、と、通、過、今、日、は、オ、ジ、ト、様、が、我、等、の、上、に、あ、
るので、い、い、か、ら、は、ほ、と、ん、ど、左、岸、通、し、岩、首、谷、の、出、谷、に、と、り、休、ま

ああ何んぞ美しいんだらう。胡水のトニホが何にも増して美しく
 弓張らた。これから少し行くと小さな廊下帯左壁のレシトモトラパス
 ぎみに行く。悪い徒渉をし石岸の岩の上のテラスにT.Sの跡らしきも
 のがあった。再び左岸へしばらく行くと立岩があまり十分休む。
 高さは40m位。このpitchで北沢足をつる。しばらく行くとE沢の手前
 で今日のT.Sとすまが又、又釣れる。

明日は持つて33と種取る。

4日 ● → ○ → ● → ●

6:35 出発 ~ 7:45 葦原沢小屋 ~ 9:35 平 ~ 11:00 祖父平の川上 (T.S)

出発と同時に天上より雨がしばらく左岸を行く。EDCBA沢を徒渉をまじえ
 葦原沢の小屋でお茶を飲んで寒い腹を上げ行く。雨が止み小さな廊下帯に入
 る。石岸から左岸に二三段の滝に出る。何んぞ美しいのであらう。徒渉=人となら
 びあって...。F1(5M) F2(2M) 赤城沢を見て F3(5M) を何無く渡る。

しばらく行き広い河原に出た。4人partyと合流。焚火にあてさせもらう。

山溪の人産で11月号で黒部源流に遊ぶという記略の為の山行とが。

いいネ。五郎沢をこえた頃、岩魚がひんぱんに目の中に入る。

もうガマンできめとばかり腕まくりで。

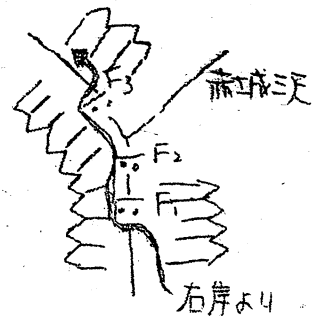
魚を造る。太一が採ったのだ。

こんなに大きな岩魚を二匹。こんな調子で

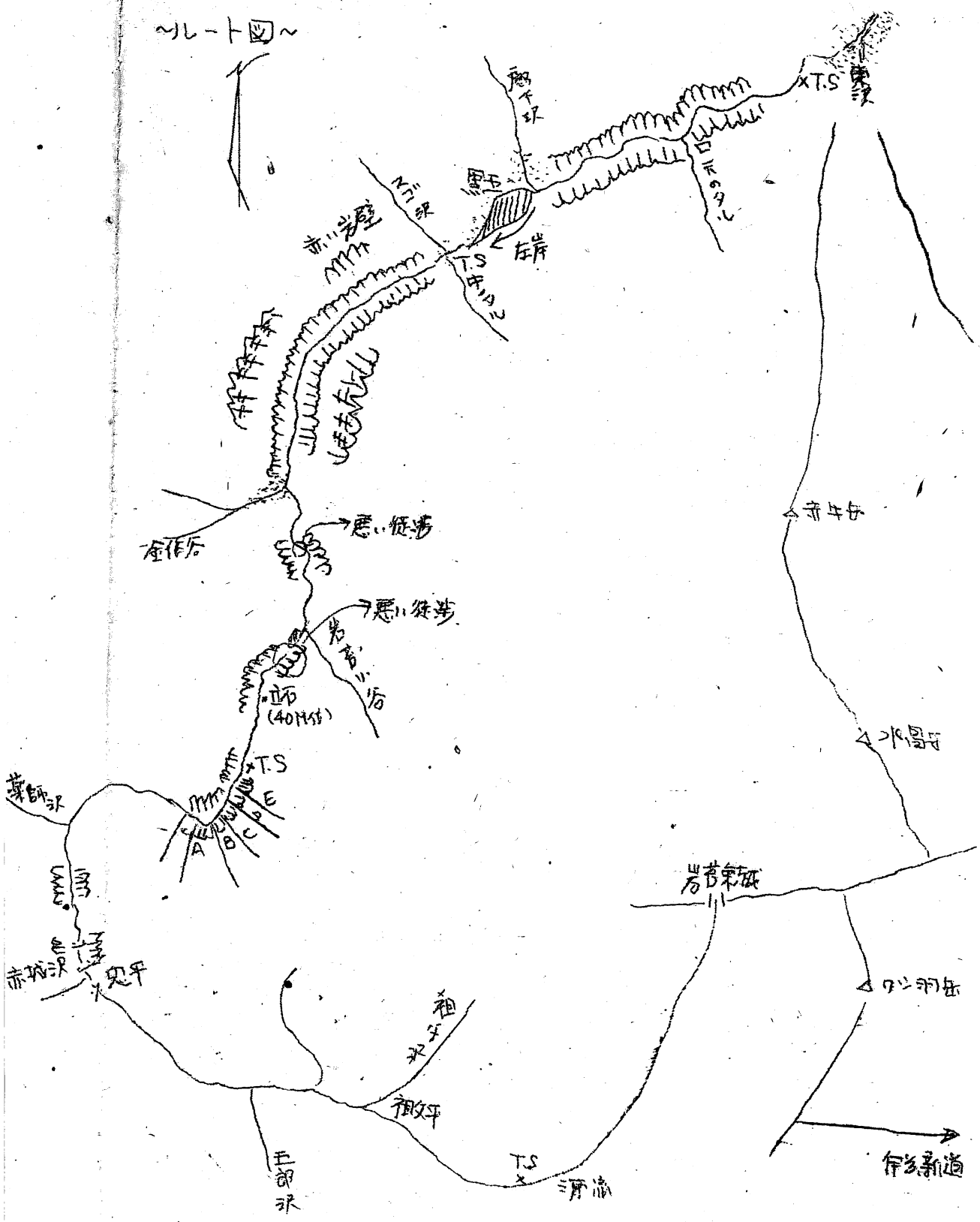
子でペースを大巾に乱し。又雨が降

ってきなので。これはいわゆる11時20分

で行動を中止。祖父平の上の河原、



~L-10~



1972.10.8~10,

藤松・北沢

1ルセ

試験前に気持ちの整理の為と思い、北沢君再度組み

小生の大掛な屏風へ行く事を決めた。しかし連休のセイガ

工房地線はメチャ混み新島R2で2時間余りもまたE11バスに乗り

時間は4時間以上、結局長野を出たのが6時04分、横尾に

着いたのは5時30分、当初の「北沢へ」というのは夢になってしまった。

Essenしながら屏風を中巻と五つ以上の「トトラニア」が「ついで」の

ではないか。さすがクライマー。

10日の日記

- 5時35分 横尾着 (川は水響が少いので舟単に渡る)
- 6時45分 1ルセ取付
- 7時10分 登攀開始
- 9時15分 " 終了
- 9時35分~10時00分 コニテ 100M 休み
- 10時30分 大きな落石2回有り
終了 コニテ 150M
- 11時00分 昼食 YCCのスコップの人と会う。
- 12時30分 洞窟 可憐なメテニ、一人で行く。どこかの山岳部か。
- 2時10分 横尾

今日は落石へその中を運ばみだし、何となくこの日の屏風は
すごい人間。この1ルセだけ2、4party、を考えれば、昨日栗積で4
partyのあたりで一人おちたとか、我が2名は3番目にとりこき来る
局はこの屏風party中と一先先にぬけてしまう。2番目は鳥山の
Dだった途中でかわり上の社会人も最後右側のコースととり
系終了した。岩は花崗岩とフリクションが良くまわく。上部の洞窟上
はかなりの慎重に歩いても石をおとす。先行Pの時は十分注意する必要
がある。1ルセは自然落石も多い。ルート自体はメチャ難か
しく無く、フリーを十分こなせる人であれば行ける。又ハーフには系統じと
十分

